

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	386	834	百日咳	0	2
RSウイルス感染症	5	11	ヘルパンギーナ	19	17
咽頭結膜熱	13	21	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	3	17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	76	71	急性出血性結膜炎	0	0
感染性胃腸炎	513	670	流行性角結膜炎(はやり目)	10	18
水痘	65	41	細菌性髄膜炎	0	0
手足口病	84	59	無菌性髄膜炎	0	0
伝染性紅斑(りんご病)	2	3	マイコプラズマ肺炎	1	2
突発性発しん	33	41	クラミジア肺炎	0	0
			感染性胃腸炎(ロウウイルス)	5	8

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- インフルエンザ
- 手足口病

大きな流行が発生又は継続しつつある地域

咽頭結膜熱 : 菊池  
 感染性胃腸炎 : 山鹿、菊池、有明  
 手足口病 : 八代  
 インフルエンザ : 山鹿

保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)

保健所名	インフルエ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロウウイルス)	
熊本市保健所	91	1	3	25	114	24	34		14		6	2		9						5
山鹿保健所	34				30	1	3				1		*	*						
菊池保健所	50	1	7	30	121	13	5	1	1		4			1						
阿蘇保健所	8				4								*	*						
御船保健所	10				3	1	1						*	*						
八代保健所	42			6	38		23		2		1									
水俣保健所	15			1	14		9		1				*	*						
人吉保健所	33				13	13	1		4				*	*						
有明保健所	27		1	2	90	4	1		6		1	1								
宇城保健所	48	3	1	11	59	8	5		3				*	*						
天草保健所	28		1	1	27	1	2	1	2		6							1		
計	386	5	13	76	513	65	84	2	33	0	19	3	0	10	0	0	1	0	0	5

年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)

インフルエンザ定点	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上
インフルエンザ	386	2	4	36	20	22	22	20	21	22	12	8	34	12	25	37	31	29	18	5	6
小児科定点年齢	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上						
RSウイルス感染症	5		4	1																	
咽頭結膜熱	13		2	5	5				1												
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	76				6	7	14	9	11	9	4	6	6	2	2						
感染性胃腸炎	513	5	37	78	70	54	60	48	32	25	22	13	35	4	30						
水痘	65	1	2	13	19	13	11	5	1												
手足口病	84	1	3	32	27	8	7	2	1	1	1				1						
伝染性紅斑	2		1						1												
突発性発しん	33	1	19	12	1																
百日咳	0																				
ヘルパンギーナ	19	1	2	5	5	1	1	1	1	1	1										
流行性耳下腺炎	3						1	1		1											
眼科定点年齢区分	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	10												1				3	3	1		2
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0																				
無菌性髄膜炎	0																				
マイコプラズマ肺炎	1			1																	
クラミジア肺炎	0																				
感染性胃腸炎(ロウウイルス)	5	1	4																		

ダニ媒介感染症に注意しましょう。  
 春から秋にかけて、  
 マダニの活動が活発になります。

マダニに咬まれることで病原体に感染し、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群(SFTS)などの病気にかかり、重症化することがあります。  
 マダニは比較的大型(吸血前で3~4mm)のマダニで、主に森林や草地等の屋外に生息し、日本でも全国的に分布しています。  
 県内でも、昨年4件のSFTSの発生がありました。また、日本紅斑熱やダニの仲間であるツツガムシの吸血によって感染するつつが虫病が毎年複数例報告されています。  
 外出するときは、右のマダニ予防に努めましょう。

ダニ媒介性疾患の予防対策

1. マダニに咬まれないことが重要です。
2. 森林や草地などマダニが多く生息する場所には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴などを着用し、肌の露出を少なくすること。
3. 屋外活動後はマダニに咬まれていないか確認すること。
4. 吸血中のマダニに気がついた際は、速やかに病院で処置すること。
5. マダニに咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、病院へ受診すること。  
 ※マダニは、衣類や寝具に発生するヒョウダニなど家庭内に生息するダニと異なります。

